

## 「まちっ子の森」を軸にした活動の展開

堂馬 英二 (六甲山を活用する会)

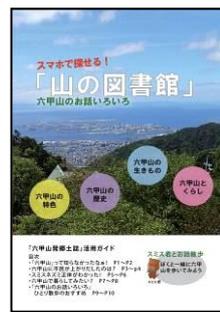
### 1. 「六甲山のお話いろいろ」の普及

2018年度は、「ひょうご県政150周年記念県民連携事業」の助成金を得て、春に『六甲山物語』1～5巻を図書館等に寄贈し、郷土資料の中に「六甲山ライブラリー」を設置するよう提案もしました。秋には「六甲山のお話いろいろ」を紹介する「六甲山発郷土誌」展を開催しました。

そして、「スマホで探せる! 『山の図書館』～六甲山のお話いろいろ～」という「六甲山発郷土誌」活用ガイドを配布しました。当会のホームページに掲載した「六甲山発郷土誌」<http://www.rokkosan-katsuyo.com/about/act/kyodoshimap/>をPCやスマホで手軽に検索して自由研究に役立てていただくという冊子です。右上のQRコードで郷土誌の4分野132話に直接アクセスできます。六甲山についての理解を深めて地域の貴重な資源を活用する手がかりにできる情報を提供します。



QRコード



活用ガイド

### 2. 「まちっ子の森クラブ」を核に「まちっ子の森デー」を運営

六甲山記念碑台周辺で、「まちっ子の森」を実現し、「六甲山頂・森と歴史の散歩道」を整備して山麓市民の自然体験や散策に活用しています。国立公園内の雑木林を環境学習林として整備した、市街地の子どもたちが自由に安心して活動できる六甲山上では希少の環境です。

「まちっ子の森」では「アセビ伐採の追跡調査」を継続して、伐採後の森の再生の状態を追跡調査しています。定例の四季の環境学習プログラムなどを開催し、年間300人ほどの児童・家族が参加し利用しています。参加者は六甲山上で生の自然に親しめる環境があることに感心し、六甲山らしい自然体験を楽しんでいます。

リピート参加者が増えているので、保護者の有志で「まちっ子の森」を運用してもらうことを考えています。「まちっ子の森クラブ」に利用者を登録し、運営スタッフを募ります。そして、「まちっ子の森」の保全と活用を自主的に行うことを目指します。具体的には、第3日曜日を「まちっ子の森デー」として定例開催し、環境学習や自然体験、そして森の調査や保全活動など多様なプログラムを用意します。第3日曜日に「まちっ子の森」に出かけることを習慣づけて、「森に親しむ・森を調べる・森に関わる」という3ステップでの自然体験の進化を図ります。

現在のイベントを催して参加者を募集するという発想から、活動場所とプログラムを提供して自由参加してもらうスタイルに転換しようとしています。簡単なようですが、参加者の意識やライフスタイルの変化を促すような働きかけが必要になります。



ブルーシートを広げて一服



モリアオガエルの卵塊を調査



スタッフと毎木調査に参加

### 3. 「六甲山ササ刈り隊」で市民参加の森づくりを目指す

私たちは、六甲山上に環境学習や自然体験ができる拠点を創出しました。これまでの過程を通じて、六甲山を他人任せにしていると、市民目線の環境整備が進まないと感じています。最近では自然災害の被害が顕著になっており、山上に住む人は減少し、山道の整備などは行き届かなくなっています。六甲山を利用するだけでなく、自然環境の保全・整備などを山麓の市民も担う必要があると感じます。現在手がけている、「まちっ子の森」や「六甲山頂・森と歴史の散歩道」の環境整備を「**六甲山ササ刈り隊**」と名づけて、参加者を広く募集しようとしています。この小さな試みが知られて、同様の活動が六甲山上に広まれば、六甲山の自然環境を市民が保全する名物行事になると想像します。



まちっ子の森でササ刈り



台風で崩壊した山道